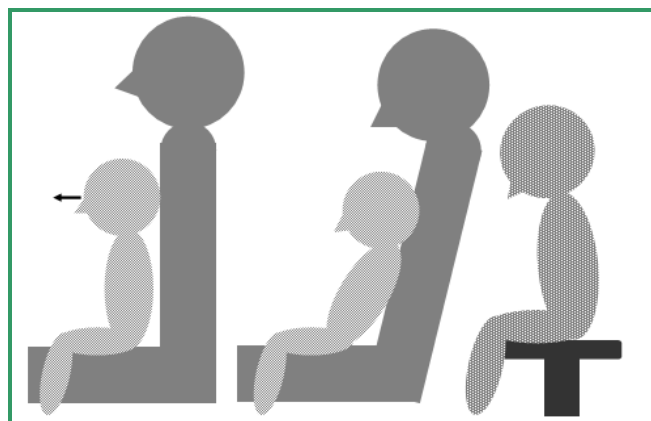


乳幼児のお腹の診かた

※ 大人と子どもは違う。当然のことです。が、診察法については、子どもの気持ちに合わないことがあります。例えば、腹部の触診…

※ 大人では、ベッドに仰臥位になってもらい、膝を曲げて、力を抜いてもらうのが基本です。が、乳幼児から学童期を通じて、子どもでは、しばしば緊張し、触診し辛くなります。本物がみえない！

※ 乳児では、保護者に抱いてもらったの触診(図左)となりますが、この際に、保護者は乳児の体を倒すこと(図中)が多々あります。この姿勢では、おなかの視野が広がりますが、しかし、乳児の腹筋に力が入り、“本物が触れない”のです。



乳児が自分で椅子に座っている姿勢を保持し、「おめめをみせて」と促す誘いをします。幼児や学童が一人で座る場合、触診時に、お腹を見ようとして前傾姿勢になること(図右)も多々ありますが、この際も腹筋に力が入り困ります。リラックスした言葉かけをし、目を見つめ合う姿勢を維持することで、“本物が触れる”のです。

※ 乳幼児の腹部触診 ⇒ “本物を診る”ための配慮が不可欠です。